

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院呼吸器内科

後期研修医募集案内

【概要】

主任部長 石田 直 (いしだ ただし)

当科は、病床 90-100 床を有する日本でも屈指の規模を持つ呼吸器内科です。あらゆる呼吸器疾患を扱いますが、特に呼吸器感染症の分野では本邦での指導的立場にあります。また、がん拠点病院として多くの肺癌患者の治療を受けもっています。国内外の学会活動、講演や論文投稿も積極的に行っています。当科の研修により、急性期治療、集中治療も含め数多くの症例を経験でき、呼吸器内科医として十分な力量を養成できます。

呼吸器内科が担当する疾患分野は、腫瘍、感染症、アレルギー、免疫、各種呼吸不全と多岐にわたり、また救急疾患の多い科です。そのために幅広い知識と実践的な臨床能力が要求されます。当科では年間入院患者約 1800 例、外来延べ患者約 25000 例の診療に当たっており、豊富な臨床経験を積むことが可能です。特に感染症やびまん性肺疾患の領域では全国でも屈指の症例数を有しており、日本呼吸器学会や日本感染症学会のガイドライン等の作成に参加しています。日本呼吸器学会認定指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡指導施設、日本感染症学会研修施設、日本臨床腫瘍学会研修施設、日本アレルギー学会認定準教育施設を標榜しています。またシニアの研修中に 3 ヶ月間の ICU ローテーションを行い、集中治療、呼吸管理について研修するシステムを 2006 年度より導入しています。

当院では、シニアレジデント修了後の医師に対しても専門修練医（オーバーシニア）として若干名を募集しています。シニア 2 年目、3 年からの応募も可能ですので、お問い合わせください。

【募集期間】

応募期間 平成 27 年 7 月 27 日～平成 27 年 8 月 28 日

試験日 平成 27 年 9 月 6 日（日）あるいは 9 月 13 日（日）

募集要項の詳細は HP <http://www.kchnet.or.jp/> レジデントの広場を参照ください

【研修内容】

*1 年目

前半は上級医の指導医とともにできる限り多彩な症例（受け持ち 10 例程度）を主治医として担当する。後半からは入院患者の診療とともに退院患者を中心に外来診療の基本を習得する。また往診当番や拘束当番に入り、他科や救急からのコンサルトに対処できるようにする。気管支鏡検査が単独で行えるように習熟する。ICU に 3 か月間配属となり、麻酔科医師の指導のもとに集中治療、呼吸管理等について研修する。

*2 年目

病棟患者を主治医として担当するとともに、週 1 回の外来（再診）を担当し、飛び込み受診を含めた外来患者に対処できるようにする。全ての呼吸器内科的検査が独力で行えるようにする。地方会、研究会で症例発表を行う。内科認定医を取得する。

*3 年目

引き続き病棟での患者を主治医として担当。週 1 回の外来で初診にも対応できるようにする。上級医としてジュニアレジデントの指導を行う。全国規模の学会、研究会で発表を行うとともに論文作成を行う。希望があれば subspecialty group に入り臨床研究を行い、国際学会でも発表を行う。

*専門修練医

呼吸器全般の臨床を問題なくこなせるようになり、呼吸器内科専門医および他の専門医資格を取得する。ジュニアおよびシニアレジデントの指導医となる。Subspecialty について定期的に学会、研究会での発表を行い、臨床研究に参加する。修練医終了後、どの施設に移動しても中心的な立場になれるようにする。

国際学会研修：シニアレジデントの 3 年間に 1 回、科の費用負担にて主要国際学会 (ATS、ASCO、ERS など) へ参加し、知識や経験を深める機会を設けている。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
AM	小グループカンファ	呼吸器外科、放射線科との肺癌カンファレンス 気管支鏡検査	小グループカンファレジデント抄読会等	肺癌抄読会 呼吸器外科との抄読会 病棟廻診	小グループカンファ
PM		気管支鏡検査		気管支鏡検査	
夕刻～	総合カンファレンス	外科との合同カンファレンス 放射線科合同症例検討会(1/M) 間質性肺炎カンファ	レジデント勉強会 感染症抄読会(1/M) 膠原病内科合同カンファレンス(1/M)	総合カンファレンス 呼吸器外科・放射線科・病理合同CPC(1/2M)	

【専門医などの取得】

研修期間中に内科認定医取得を必須とする。将来の呼吸器学会専門医（学会所定の研修カリキュラムに従い日本内科学会認定内科医資格を取得した年度も含めて3年以上、呼吸器病学の臨床研修を行うこと）呼吸器内視鏡学会専門医あるいは subspecialty の専門医取得（感染症専門医、結核・抗酸菌症認定医、アレルギー専門医、抗菌薬認定医、がん薬物療法専門医等）を目指す。専門に偏ることなく内科全般の臨床が出来る医師を目指すため内科専門医も取得することを推奨する。

【シニア修了後の進路】

大学院進学または医員として大学医局に入る（希望の大学医局可能）。他の病院にて臨床を続ける（京大呼吸器内科では、関西地方を中心に50以上の関連病院を有しており、何れの病院においても呼吸器内科医は不足しているため需要は多い。もちろん他大学の関連病院や医局人事を離れての病院赴任希望があれば紹介は可能）。当院で専門修練医として残留する。などの進路が考えられるが、本人の希望を可及的尊重したい。

なお、当院スタッフになった場合、希望すれば論文による学位取得も可能である（この場合、京大呼吸器内科に入局し、研究生となる必要あり）。

○ いままでのスタッフの出身大学

北海道大学、秋田大学、東北大学、日本大学、山梨医科大学、金沢大学、富山大学、福井大学、愛知医科大学、三重大学、滋賀医科大学、京都大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、大阪医科大学、関西医科大学、大阪大学、大阪市立大学、近畿大学、和歌山県立医科大学、神戸大学、岡山大学、香川大学、九州大学、久留米大学

○ 過去の当科シニアレジデント修了後の進路

京都大学呼吸器内科、京都大学病院感染制御部、京都大学社会健康医学分野、金沢大学腫瘍内科、滋賀医科大学呼吸器内科、近畿大学腫瘍内科、香川大学呼吸器内科、神奈川循環器呼吸器センター、福井総合病院呼吸器科、福井赤十字病院呼吸器内科、天理よろず相談所病院呼吸器内科、大津赤十字病院呼吸器科、大阪赤十字病院呼吸器内科、市立堺病院、国立病院機構姫路医療センター呼吸器内科、沖縄中部病院呼吸器内科、岡山済生会総合病院緩和ケア科、九州大学呼吸器内科、神戸大学大学院医学研究科、神戸保健所